

教育目標

自主
他敬 自愛
創造

内野中だより

内野中ブログ
QRコード



新潟市立内野中学校だより 令和5年12月6日(水)発行 第8号 新潟市西区内野西1-10-1 電話 025-262-3161
生徒数 1年生253名 2年生255名 3年生278名 計786名(7月21日現在)

参加団体

日本海側 初!

新潟市内野から陸前高田市内野へ

後世につなぐ桜プロジェクト

桜苗木へのご寄付を頂き、感謝申し上げます

校長 佐藤 靖子

11月20日(月)～22日(水)お陰様で第2学年の生徒は、東北地方の修学旅行でたくさんの学習をして参りました。1日目の仙台市では、班別企業訪問。東北大震災を乗り越えた各企業の方々から復興に対する熱い思いや、SDGsに関わる持続可能な取組についてインタビューを交えながら学びました。2日目は、陸前高田市、気仙沼市を訪問し、3日目は、仲間との思いでづくりで「那須ハイランドパーク」へ行きました。

特に、皆様から多大なるご協力を頂きました2日目の桜植樹の経緯と当日の様子について、お伝えします。

私ごとですが、「東北さくらライブプロジェクト」の活動を知ったのは、10年前の2013年です。震災の爪痕がまだ多く残る中で、各ミュージシャンや演劇関係者の方々も興行をしてよいのか、かなり躊躇した時代です。しかし、東北の方々の声の中には、「ひと時でも辛いことを忘れない」「大好きなアーティストの歌声で元気づけられた」という声が芸能界にも届き、少しずつ活動が再開した2013年です。私は中学時代から大ファンの、あるアーティストの東北大震災復興チャリティコンサートに当選し福島市に赴いた時、東北さくらライブプロジェクト「桜ライン311」の活動に出会いました。そこで目にしたリーフレットの「私たちは悔しいんです」の文字に衝撃を受けました。1,000年前にも大津波で何度も津波被害に遭っていた三陸海岸には「この下に家を建てるべからず」と後世に伝えようとする先人が刻んだ古い石碑が各所に点在していたのですが、宅地開発や雑木林で埋もれてしまい、その言い伝えが途切れてしまった悔しさ。そして、この100年以内には大きな被害もなかったので「今までも大丈夫だったから、逃げなくても何とかなる」という過信があった悔しさ。そして、何よりもこの大災害がどんどん風化をして同じ日本人でも忘れ去られていく悔しさ。そんな、心の叫びを今も災害に見舞われた方々は思っているんじゃないんです。だからこそ、津波最大到達点に桜を植えて、この桜並木を見て災害を風化させない、いざ津波が到来する時は、この桜並木よりも内陸に逃げる、されど春には満開の桜の木に集える安らぎの場所としたい。そんな思いをもって「福島浜街道桜プロジェクト」(福島市)「桜並木ネットワーク」(宮城県)「桜ライン311」(岩手県)の3県が共同で約1,000kmの津波最大到達点に桜並木を植樹するプロジェクトが12年前に立ちあがりました。

新潟大地震から59年経った今、日本海側も他人事ではありません。この度の修学旅行のテーマは、「メリハリ・チームワーク・自分事」です。防災・減災について資料を見ただけでは我々大人も実感が湧かないことが多いです。東北大震災の記憶は現在の中学生はほとんどない様子です。ですので、津波の威力や震災での様々な困難があったこと、今も解決していないことなどを実感し、切実感をもって自分事として考えるには、現地の最大津波到達地点に実際に皆で立ってみなければ実感できないと考えました。



だからこそ、現地の方々しか知りえない最大津波到達地点に桜を植樹させていただくことで、その現場を知り、後世につながる桜植樹を通して自分たちも役に立てたのではないかと、という思いをもって欲しかったということ。

そして、何よりも桜にこだわったのは、内野地区が桜の名所であり、内野の桜と、陸前高田市の桜、東北の桜ラインと心の絆が繋がっていければと考えました。いつか、大人になった生徒たちが「この桜を私たちが植えたんだよ。なぜならね…」と30年後の新しい家族に教える、後世に語り継いでいく、日本海側の私たちも自分事で考える、そのような未来につながる学びができるように願って活動を展開しました。

植樹するにあたり、保護者の方から積み立てていただいた修学旅行の経費から桜の苗木代を計上するのでは切実感がなく他人事になると考え、自分たちの手で、この活動の趣旨を広く他の方々へも知らせながら、賛同して頂いた方からは寄付を募る、ということで「内野中学校桜プロジェクト」が発足し、2年1組から2年7組の有志(約70名)が寄付金活動を行いました。お陰様で、69,446円(約7万円)が集まりました。その寄付金を陸前高田市へ持参して代表生徒2年1組 高林咲那さんから桜ライン311代表岡本翔馬さんへ寄付金を贈呈させていただきました。



11月21日(火)晴天の中、2年生250名は、2地区に分かれて植樹をさせていただきました。高さ3m程の桜苗木は1本15,000円でしたので、4本植樹をさせていただきました。そこで、さらに驚いたことはこの度植樹をさせていただいた地域に内野地区がありました。

- A隊(2年1組~4組) 陸前高田市広田町六が浦地区 … 桜 2本植樹
- B隊(2年5組~7組) 陸前高田市気仙町内野地区 … 桜 2本植樹



このB隊が植えた地域名が「内野」でしたので、このような奇遇といえますか、奇跡が起きて本当に我らの新潟市「内野」~陸前高田市の「内野」が繋がった瞬間のようでとても感動いたしました。また、日本海側で参加する団体は、当校が初との

ことでした。生徒たちは、最初に全員で海に向かって黙とうをしたのち、代表生徒の手で、各地区2本ずつ植樹をしました。

生徒のコメント「ここまで津波が来たのかと認識させられました。植樹した桜が震災の記憶を後世に伝えることにつながればうれしい。」「自分たちが寄付金活動をしたお金で、桜植樹に貢献できたことが誇らしい。いつか、桜が咲いたこの木に会いに来てみたいと思います。」桜ライン311の方々がおっしゃるには、「来年の4月上旬には、早速、桜の花が咲くかもしれませんよ。いつか見にいらしてくださいね。」とのことでした。

また、11月21日(火)午後に訪問した気仙沼市東日本大震災・伝承館(県立気仙沼向陽高等学校)には、6名の語り部さんが、校舎4階屋上にて当時の津波が襲来した様子や避難状況を説明をしてくださりました。一番若い語り部さんは22歳で「私は、震災時は気仙沼市立階上(はしかみ)小学校2年生でした。小、中、高校生、皆で逃げたという記憶があります。現在、同級生30名位も交代で語り部としてボランティアをしています」と語ってくれました。最後に語り部のリーダーさんが、「新潟市の内野でも、地域で防災訓練していますか?地域防災は絶対にせにゃあかんよ。いざという時に、どこに逃げるのか、避難所はどのように運営するのか、すごく大事だからね。」と繰り返しておっしゃっていました。痛切に感じます。今、2年生は、まとめのレポートや動画を作成中です。ご家庭でも、この体験をお子さんに聴いていただくと幸いです。桜植樹に関するご寄付に対しまして、多大なるご協力を賜りまして、大変ありがとうございました。



いつか陸前高田市の桜並木もご覧いただけたらと思います。

